

# 三浦印刷株式会社

三浦印刷株式会社は札幌市中央区と白石区の2カ所に工場を構え、チラシ、ポスター、カタログ、パンフレット、冊子の印刷を幅広く扱う総合印刷会社。最新鋭の機器を備え、工場では20人の従業員が印刷から製本まで一環生産を行っている。多品種の印刷に対応するため、常に技術の向上が必要な職場だ。

## 見よう見まねではなく 理論を理解した上で 経験を積むため技術研修を

### 新人を採用し製本部門の人材育成が急務に

同社ではチラシの印刷と折りから、名刺のような小ロットのオンデマンド印刷、クリアファイルのプリントまで、サイズも材質も多様な印刷を手がける。現場では「少数精鋭」をモットーとし、従業員一人一人が各自の持ち場のプロでありながら、ほかの部署の助っ人として作業をサポートできる体制を取ってきた。指定色のインクの配合もできる印刷担当者、プリプレス(刷版の作成)もできるデザイナーといった、大手印刷会社とは一味違うスペシャリスト集団が、顧客のニーズにきめ細かく対応している。

製本部門では断裁した印刷物を正確に折り、納品用に梱包するまでをしっかりとこなせる人材が求められる。ベテラン社員の退職や、中国から3年の期限で来日していた実習生の任期満了、新人の転職が続き、製本オペレーターの早急なレベルアップが求められる状況となった。

平成27年現在、製本オペレーターは20代の新卒3年目の主力社員と、他社で製本の経験があった50代の新入社員の2名。主力社員は工業高校ではなく普通高校の出身だが、機械の取り扱いに予想外の適性を発揮し、入社3年で最優秀社員賞を2回受賞する腕前に。新入社員は前職では最新鋭の製本機に触れる機会がなかったため、両者の技能に大きく差がついていた。学ぶ意欲はあっても、技術の習得に時間がかかっていた新入社員が基礎から学び直し、同時に主力社員がさらにスキルアップできるよう、製本機メーカーから指導員を工場へ招き、朝から夕方まで1日間の技術研修を企画した。

### 機械メーカーから技術指導員の派遣を依頼

研修当日は、世界最大級の老舗印刷機メーカーであるドイツ・ハイデルベルグ社の日本法人、ハイデルベルグ・ジャパン札幌営業所から技術指導員が来社し、16ページ折、観音折、DM折、アジロ折などを実演。高速で回転する製本機のスピードを落とすことなく、正確に作業を進めるための操作の基本や、機器の調整・整備など、機械の性能を最大限に生かすためのノウハウの解説と質疑応答を行った。今回の研修を計画した小巻工場長は、「社内の生産性を高め、良いものをより早くお客様に提供するためには、技術者が見よう見まねではなく、理論を理解した上で経験を積むことが必要です。受講者にはこれから場数を踏んで、さらに技術を向上させてほしい」と語っている。



製本作業はスピードを重視



中島公園に面した中央区の社屋

### 作業を効率アップし スピード重視で 顧客の要望に対応



工場長 小巻 正明

オペレーター同士で仕事の引き継ぎを行った場合、機械メーカー側と同じ知識が100%伝わるわけではありません。研修で一から操作の指導を受け、機器の性能を生かすヒントを得られたと思います。受講者は研修以来、見違えるように良くなりました。これからは顧客のニーズに確実に応えられるよう、作業のスピードアップを図ります。

### 研修経験を励みに 前向きな気持ちで 頑張ります



製本オペレーター 藤森 功子

今回の研修では、製本機の取り扱いを基本から改めてしっかり学ぶことができ、自分の技術的なレベルは客観的に見てまだまだだと痛感しました。せっかく指導を受けたのだから頑張ろうと前向きに考えて、日々の業務に取り組んでいます。高速で稼働する製本機のスピードに慣れ、機械のトラブルにも素早く的確に対処できるように努めます。

### 機械の整備や調整も 事細かに教わり 勉強になりました



製本オペレーター 松尾 祐来

以前は束ごとに機械を停めて給紙するパイロット型、今はエンドレスで給紙できるラウンド型の製本機を担当しています。研修では技術指導員の方に機械の整備や調整の仕方まで、事細かに一から教わることができ、とても勉強になりました。先輩から仕事を引き継いで以来、今まで何となく慣れでやってきた作業をきちんと見直す良い機会になりました。

### 〈会社情報〉

- 三浦印刷株式会社
- 所在地 / 札幌市中央区南9条西6丁目
- TEL / 011-511-6191
- FAX / 011-512-6041
- 代表者 / 代表取締役 三浦 義昌
- 設立 / 昭和24年2月
- 従業員 / 32人